

ワイヤレス・コントロールユニット (PWS-T 型)

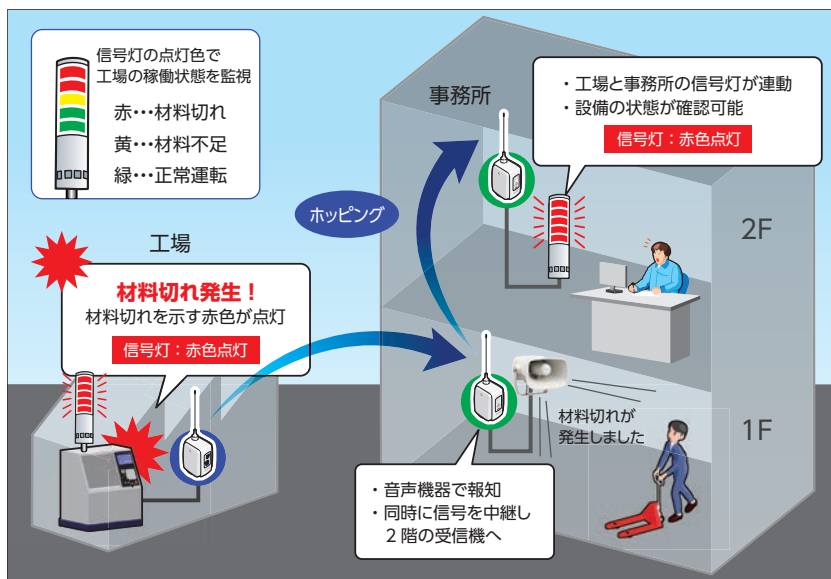
省エネ版を使った用途事例

省エネ版  
用途事例 1

工場にある設備の状態を離れた場所で確認したい。  
将来的にはレイアウト変更も考えているが・・・



大がかりな配線作業なしで報知機器の無線化が可能。レイアウト変更も容易に対応できます。



PWS-T 型(省エネ版)と当社の信号灯・回転灯・音声報知器を組み合わせることで、離れた場所にある設備の状態が確認できるようになります。大がかりな配線工事もなく、低コストで導入できます。また、設備のレイアウト変更も容易に対応できます。マルチホップ機能で離れた建物やフロア間でもお使いいただけます。



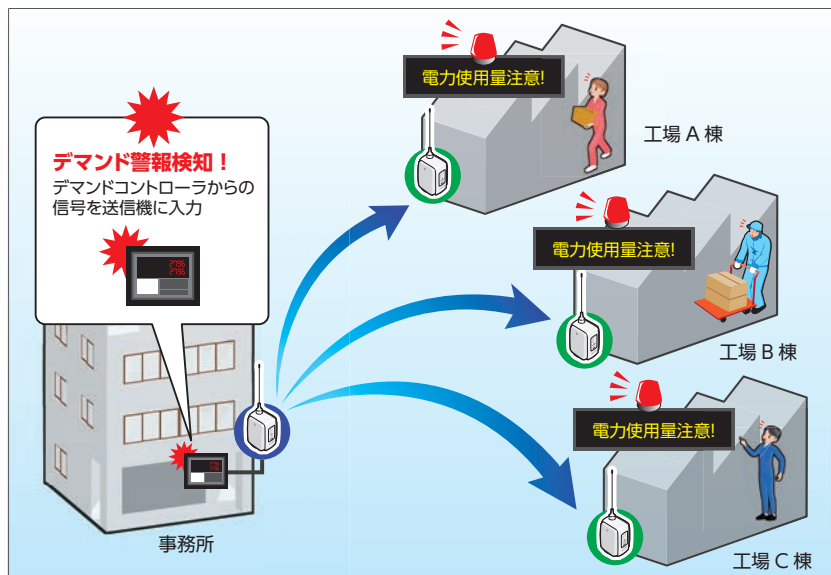
離れた場所の信号灯を連動させて、設備の状態を確認することが可能です。

省エネ版  
用途事例 2

デマンド監視の情報を、なるべく費用をかけずに  
効果的に報知させる方法は無いだろうか・・・



特定小電力無線を使って、低コストでシステム構築できます。



PWS-T型(省エネ版)の通信距離は屋外見通し約350メートルなので、離れた建物からの信号を十分にキャッチすることができます。また、電波をホッピングさせることで伝送距離を延長することも可能です。



光と音・音声・文字表示を組み合わせる事で、より効果的な注意喚起がおこなえます。効果的な報知で迅速に対応することができます。